

研究主題

いのち

生命を大切にした心の教育

— 全教育活動を通して「心の教育」を推進する —



【はじめに】

平成27・28年度東京都教育委員会人権尊重教育推進校としての指定をいただき、全教育活動を通して研究・実践を進めてまいりました。今年度は、さらに研究を深めるべく様々な教科・領域での人権教育の在り方を探りながら、人権意識を高め、豊かな共生の心をもった子供たちを育てることを目指しました。

本校が人権教育の研究をはじめ、40年有余の月日が流れようとしています。しかし、今なお、現代社会に残る偏見や差別、人権問題は解消されていないことも事実です。

私たち瑞光に集う教職員は、そのような現実を重く受け止め、私たちの研究の成果が、瑞光の子供たちの姿でさらに現れることを心より願い、研究・実践を進めています。今後も研究を深め、広めることをお約束し、御指導を賜りました皆様への感謝の気持ちとさせて頂きたいと考えます。

荒川区立瑞光小学校
校長 大橋 昭彦

荒川区立瑞光小学校

〒116-0003 東京都荒川区南千住1-51-1

TEL 03-3801-4239

FAX 03-3801-9805

URL <http://www.aen.arakawa.tokyo.jp/ZUIKO-E/>

研究の概要

研究主題

『生命を大切に^{いのち}した心の教育』

— 全教育活動を通して「心の教育」を推進する —

研究の重点

- 1 「生命」に重点をおき、児童の人権意識を高める。
- 2 道徳の時間を要として、児童の道徳性を育てる。
- 3 体験活動を通して、共生の心や実践力を育てる。
- 4 言語活動を充実させ、望ましい人間関係の基礎を培う。

主題設定の理由

本校は、平成17年度より「生命を大切に^{いのち}した心の教育」という研究主題で、道徳教育を中心に人権尊重教育推進校として全教育活動において「心の教育」を進めてきている。児童の心を育てるためには、心の教育を全教育活動において行うこと、さらに継続して行うことが効果的であると考え、27・28年度も同じ研究主題で引き続き「心の教育」を通して人権教育を進めていく。

「生命」を生き方まで含めた広い意味で捉え、生命尊重を基盤として、道徳の授業を充実させ、他の教育活動との関連を図ることで、より効果的に児童の人権意識を高め、共生の心をもった豊かな心を育てていく。今年度も引き続き、「心の教育・人権教育の年間指導計画」を活用し、人権教育で育てたい資質・能力を明らかにした上で、人権教育の視点を設定して取り組んでいく。

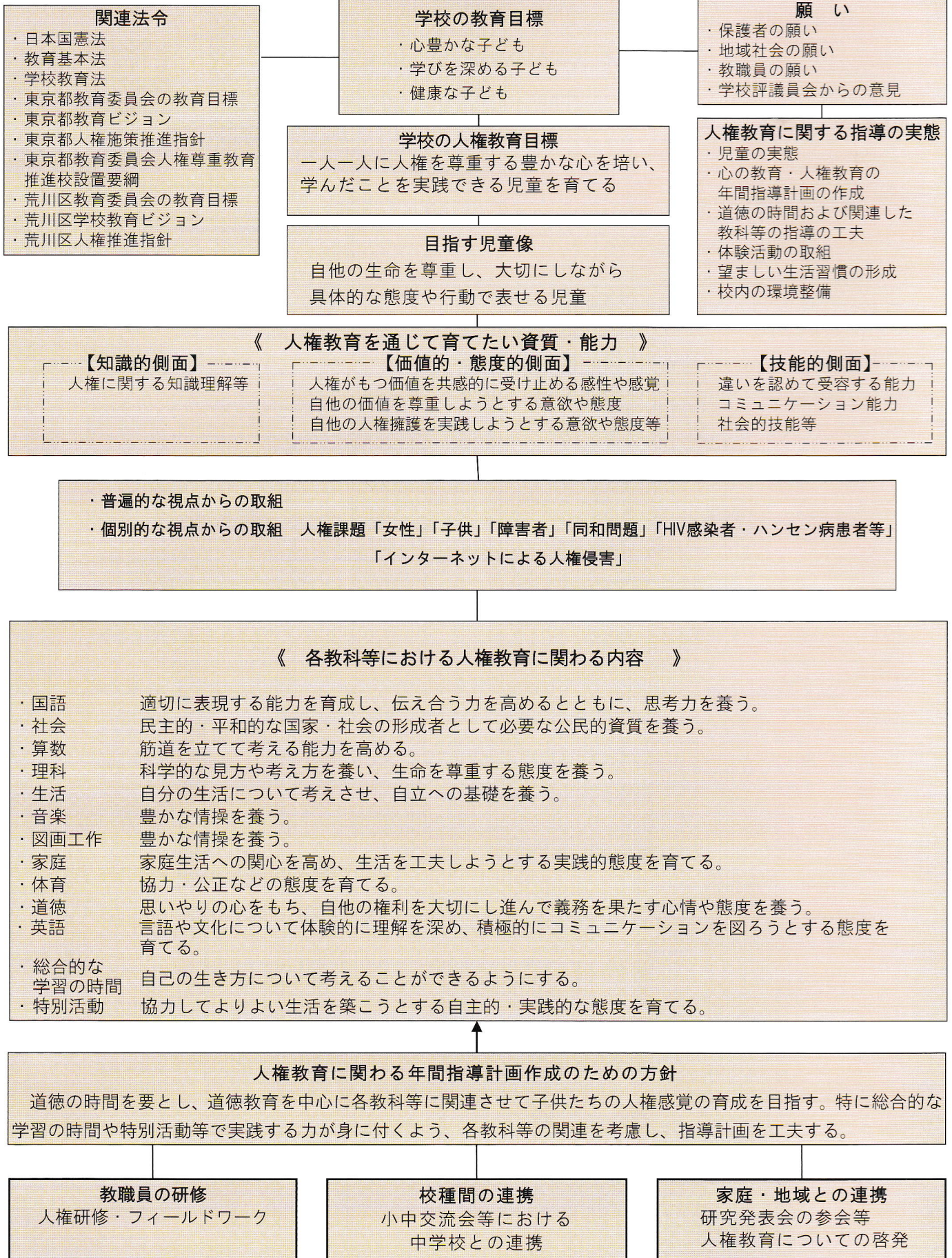
継続して研究を進めることで、多くの児童が生命について考えるようになり、人権を尊重する気持ちが高まってきている。さらに児童の実態から、人と人とが関わり合うために必要な言語力をより一層高めていく必要があると考えた。そこで、引き続き、本校が積み重ねてきている人権教育をさらに深めるとともに、言語活動の充実を通して、望ましい人間関係の基礎を培わせていく。

このように、積み重ねてきた人権教育の成果を児童の姿として現すために研究を深めていく。

研究の方法

研究推進委員会が中心になり、低学年・中学年・高学年、および専科分科会の4分科会で研究を進める。

- ・ 低・中・高分科会では、教育活動全体で関連を図りながら児童の発達段階や実態を踏まえ、研究を進める。
- ・ 専科分科会では、心を育てる環境を整えるとともに、教科の特性を生かして授業実践を行い、専科の授業を通して児童の心を育てていく。
- ・ 分科会ごとに学習指導案の検討、授業実践、授業観察などを行い、授業力の向上を図る。また、それぞれの授業での課題を大切に、研究を深める。
- ・ 調査研究を通して、人権教育の成果を子供の姿で現す。
- ・ 毎月1回の人権教育研修やフィールドワークによる研修を通して、教職員の人権課題への理解を深めるとともに人権意識を高める。



普遍的な視点からの取組（各教科）

<第1学年の実践例>

国語 「きよだいな きよだいな」

目標 書いたお話を読み合い、様子がよく分かるところやおもしろいところを見つけて、伝える。

人権教育の視点【技能的側面】

お話を短い言葉で適切に表現できる思考力や想像力を育てる。

指導の工夫

- ・ヒントカードに、自分が決めた巨大なもので、どんなことをしたいかやその時の様子を書かせたり、巨大なものを絵に描かせたりし、想像を膨らませられるようにした。
- ・書いたお話を友達と紹介し合う活動では、3人組で行い、巨大なものの様子がよく分かるところに付箋を貼らせ、感想を伝え合う活動を取り入れた。

成果 児童は、友達のお話から巨大な様子がよく分かるところを見付けることができた。



<第3学年の実践例>

特別活動 『ドッジボール』と『リレー』を楽しくするための工夫を考えよう。」

ねらい 友達のことを考えながら自分の考えを伝えたり友達の考えを聞いたりし、折り合いをつけて話し合い活動を行う。

人権教育の視点【価値的・態度的側面】

学級活動を通して、望ましい人間関係を形成し、集団の一員として学級におけるよりよい生活づくりに参画する自主的・実践的な態度を育てる。

指導の工夫

- ・事前指導ではワークシートに意見を書かせ、児童一人一人が自分の考えをもてるようにした。
- ・計画委員会を行い、司会グループの児童が見通しをもって話し合いを進められるようにした。

成果 児童は、学級の友達の立場を考え、折り合いをつけながら話し合いを行うことができた。



<第5学年の実践例>

体育 「走り高跳び」

目標 友達と助け合い、練習や競争をしようとする。

人権教育の視点【価値的・態度的側面】

自己やチームの課題に応じた練習方法を選んで仲間と学び合って練習したり、競争を行ったりすることで協力・公正な態度を養う。

指導の工夫

- ・学び合いの視点を明確にするため、掲示物を準備し、子供たちが意識して学習に取り組めるようにした。
- ・リズムカルな助走を意識させるため、場の工夫を行った。
- ・前時までの記録をもとに自己の力を把握してから競争できるよう学習シートの工夫を行った。
- ・グループで協力して記録を高めていこうという意欲を高めるため、肯定的な声掛けを例示した。

成果 グループで励まし合い、仲良く運動することができた。



<第5学年の実践例>

音楽 「思いをもって伝えよう～スピリチュアル」

目標 歌詞の内容、曲想を生かした表現を工夫し、思いや意図をもって歌う。

人権教育の視点【価値的・態度的側面】

豊かな情操を養う。

指導の工夫

- ・歌い方の違う2人の歌手の鑑賞を通して、表現の多様さに気付くことが出来るようにした。
- ・スピリチュアルの背景を知ること、曲の思いを感じて自らの表現を工夫する手だてとした。
- ・互いに聴き合うことで表現の違いやよさに気付くことが出来るようにした。

成果 表現と鑑賞、また道徳の「マリアン・アンダーソン」と関連させて学習したことで、自分の思いや意図をもって表現するというねらいにより迫ることが出来た。



普遍的な視点からの取組（道徳）

<第1学年の実践例>

道徳 「かがやけ いのち」

ねらい 生きている喜びを実感し、生命を大切にしようとする心情を育てる。

人権教育の視点【価値的・態度的側面】

登場人物の心情に共感させたり、自分の生活を振り返らせたりすることで、生きている喜びを実感し、生命を大切にしようとする心情を育てる。

指導の工夫

- ・中心発問では、板書に児童の考えを分類整理し、ねらいとする価値を分かりやすくした。
- ・振り返りでは、ワークシートに書かせることで、自分の思いをもつことができるようにした。

成果 板書を分類・整理したり、ワークシートに振り返りを書いたりすることで、児童に生命を大切にしようとする心情を育てることができた。



<第2学年の実践例>

道徳 「ぽんたと木のみ」

ねらい 何事にも粘り強く取り組み、あきらめずに頑張ろうとする心情を育てる。

人権教育の視点【価値的・態度的側面】

心に残った場面を伝え合わせたり、自分の生活を振り返らせたりすることで、何事にも粘り強く取り組み、あきらめずに頑張ろうとする心情を育てる。

指導の工夫

- ・中心発問では、隣の児童と意見を伝え合い自信をもたせた後、席を立てて意見を交流させた。リストバンドを使用し、同じ場面を選んだ児童が分かるようにした。
- ・振り返りでは、ワークシートに書かせることで、自分の思いや考えをもつことができるようにした。

成果 リストバンドを使用して同じ意見を把握したり、振り返りを工夫したりすることで、あきらめずに頑張ろうとする心情を育てることができた。



<第4学年の実践例>

道徳 「どっちがいいか」

ねらい 約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ろうとする道徳的な判断力や心情を育てる。

人権教育の視点【価値的・態度的側面】

自分の立場に立って話し合い、考えることで、約束や社会のきまりの意義を理解し、それらを守ろうとする道徳的な判断力や心情を育てる。

指導の工夫

- ・中心発問では、自分の立場で話し合わせたり、相手の意見を認めながら聞き合わせたりしながら話し合いを行うことができるようにした。
- ・近くの児童と交流させたり、個人でワークシートに書かせたりして振り返りを行うことができるようにした。

成果 自分の立場で話し合わせたり、相手の意見を聞き合わせたりすることで、約束やきまりを守ろうとする道徳的な判断力や心情を育てることができた。



<第6学年の実践例>

道徳 「ここを走れば」

ねらい 法やきまりを守り、自他の権利を大切にし、公德心をもって生活しようとする態度を養う。

人権教育の視点【価値的・態度的側面】

父の選択について考えたり、法やきまりを守らねばならない理由について考えたりすることで、法やきまりを守り、自他の権利を大切にし、公德心をもって生活しようとする態度を養う。

指導の工夫

- ・中心発問では、登場人物を批判したり弁護したりする討論形式の話し合いを行うようにした。
- ・自分の意見が決まった児童にはリストバンドを着けることで、視覚的に意見を提示できるようにした。

成果 相対する立場の意見を書いてから自分の意見を選ばせることで、公德心をもって生活しようとする態度を養うことができた。



個別的な視点からの取組

<第4学年の実践例> 人権課題「障害者」

総合的な学習の時間 「わたしたちにできること」

目標 障害について調べたり、障害者と交流したりすることを通して、障害についての正しい理解を深め、差別を解消しようとする態度を身に付ける。

人権教育の視点

障害者に対する偏見や差別意識について知り、全ての人が互いの人権を尊重しながら共に生きていくことができるよう、自己の生き方を考える。

指導の工夫

- ・交流学習や体験学習を通して、障害を自分のこととして考えるようにした。
- ・障害に対する友達の意見を読み、多様な考え方を受け止めるようにした。

成果

障害者に対する偏見や差別意識について考えることを通して、自己の生き方に関する考えを深めることができた。



<第5学年の実践例> 人権課題「障害者」

道徳 「ノンステップバスでの出来事」

ねらい 誰に対しても偏見をもつことなく、差別をせず、公正・公平に行動し、正義の実現に努める心情を養う。

人権教育の視点

車いすの乗客が、自分の乗っているバスに乗車してきてからの和也の心情に共感させることを通し、障害者に対する身近にある偏見や差別意識に気づき、一人一人は平等な存在であるとの自覚を深めることで、偏見や差別を解消しようとする心情を養う。

指導の工夫

- ・登場人物の感情から、障害者に対する偏った見方に気付くことができるようにした。
- ・登場人物の行動を考えさせることで、多様な考えに触れることができるようにした。
- ・資料から学んだことを表現することで、道徳的価値に迫ることができるようにした。

成果

身近にある偏見や差別意識に気づき、それに対して、公正・公平に行動しようとする心情を養うことができた。



<第6学年の実践例> 人権課題「同和問題」

社会 「世界に歩み出した日本」

目標 「解放令」によって身分制度がなくなった後も、実質的には差別されてきた人々が、差別を解消するために全国水平社を創立したことを踏まえ、差別の不合理性に気づき、自分の考えをもつ。

人権教育の視点

「解放令」が出された後も、実質的に差別されてきた人々が差別を解消するために全国水平社を創立したことや、それらの人々が受けてきた差別の実態を知ることで、差別の不合理性に気付かせ、自他の人権を尊重する上で役立つ知識を身に付ける。

指導の工夫

- ・差別の実態が理解しやすいように、映像資料を使用した。
- ・自分の考えを集約したり、精選したりするために、学習班で考えを交流できるようにした。

成果

映像資料や、友達との交流を通して、全国水平社創設の目的を知り、差別の不合理性について考えることができた。



心のじかん

月に一回朝の15分間の時間に設定している。低、中、高学年ごとに「私たちの道徳」などの資料をもとに、各自が生命や生きることについて自分の心を見つめる時間として設定した。普段の生活でも、心を見つめることができるように、心のじかんに出た児童の考えを掲示物として各クラスでまとめ、各学級や校内の掲示板上に掲示し、意識を高めた。



「希望と勇気をもってくじけずに
あなたにどんな目標がありますか。
あなたはどんな夢をもっていますか。
夢はくじけそうになるあなたをほめます。
夢はあなたの心に勇気をあたえます。
夢に向かって一歩一歩努力することが
あなたの生きる喜びを生み出します。」

平成27年度 「心のじかん」 年間指導計画

	4月	5月	6月	7月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
低学年	ともだちと なかよく	気持ちのよい ふるまいを	自分でやる ことは しっかりと	きそく正しく 気持ちのよい 毎日を	学校の生活を 楽しく	ふるさとに 親しみを もって	はたらく ことの よさを かんじて	いのちを 大切に	あたたかい 心で親切に	お世話になっ ている人に かんしゃして	自分を 見つめよう
中学年	協力合って 楽しい学校、 学級を	だれに 対しても 真心をもって	やろうと 決めたことは 最後まで	よく考えて 節度ある 生活を	友達と たがいに 理解合って	きょう士を 愛する心を もって	働くことの 大切さを 知って	生命あるもの を大切に	相手を 思いやり 親切に	そんけいと 感謝の気持ち をもって	自分を 見つめよう
高学年	互いに信頼し 学び合って	礼儀正しく 真心をもって	希望と 勇気をもって くじけずに	節度、節制を 心がけて	自分の役割を 自覚して	世界の人々と つながって	公共のために 役立つこと	自他の生命を 尊重して	相手の立場に 立って	支え合いや 助け合いに 感謝して	自分を 見つめよう

<人権に関する関心を高める取組>

○人権メッセージ【作文】

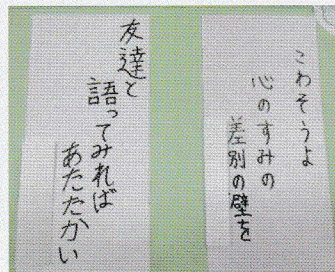
身近にある人権問題について、低、中、高学年ごとに発達段階に応じてテーマを設定し、そのテーマに関係のある人権関連図書を読み、自分の考えや意見を文章に表した。

○こころのメッセージ【標語】

家庭に対し人権意識を啓発することを目的とし、人権週間に家族と一緒に人権について考え、こころのメッセージをつくり、校内に掲示し、家庭や地域への啓発を行った。

○人権関連図書

学校図書館では、人権に関わる本のコーナーを設置し、紹介したり読み聞かせをしたりした。



研究の成果と課題

<成果>

- ・ 道徳の時間では、主人公の心情を考えていくだけではなく様々な授業展開を工夫することで、ねらいとする価値に迫ったり、道徳的な判断力、心情、実践意欲と態度を育てたりすることができた。
- ・ 各教科等においての人権教育の在り方について実践を重ね、人権教育を通じて育てたい資質、能力を育むことができた。また、学習での児童同士の関わり合いの中で友達と助け合ったり、認め合ったりする態度を養うことができた。
- ・ 学年の始めと終わりに全児童対象のアンケートを実施し、自己を振り返る機会をつくった。また、児童の実態を理解することで、道徳や各教科・領域の授業づくりや学級経営に生かすことができた。今後も、研究の成果を児童の姿として現していきたい。
- ・ 校内の人権研修やフィールドワーク、人権課題に関わる研究授業を積極的に行うことで、教職員の人権意識が高まった。



<課題>

- ・ 道徳の時間では、資料を読み比べてそれぞれの資料がもつ特徴をよく理解したり、資料に合った授業展開を取り入れたりとすることで、心に響く道徳の時間を今後も追究していく。
- ・ 話し方や聞き方のポイントを全学年で統一して授業を行うことができたが、学年の系統性を意識した伝え合い、交流、話し合いをさらに実践していく。
- ・ 各教科・領域における人権教育の在り方についての実践は、今まで積み上げてきた実践例を基に、さらに普遍的な視点や個別的な視点をもって授業を開発していく。また、児童や地域の実態に応じた本校独自の取組を充実させることで、人権教育をより一層推進していく。

研究組織（◎研究主任 ○研究推進委員）

校長	大橋 昭彦	副校長	福田 真由美
指導教諭	○染谷 美由紀 (音楽科)		
主幹教諭	大野 良子 (2年)	加藤 隆志 (6年)	
1年	村方 友一朗	田中 百恵	○竹村 祐哉
2年	石田 尚	○水野 久美子	
3年	山田 さゆり	○関村 由貴	
4年	○石川 亮	○斉藤 公春	
5年	脇本 綾子	◎菅井 一憲	
6年	○神麻 明日香	吉岡 亮介	
図工科	豊島 紗野花		
算数習熟度	○木下 恵理	養護 川崎 浩美	
事務主任	海野 右介	栄養士 小山内 法子	学校司書 布川 登子
非常勤講師	須藤 健司	向井 春美 (家庭科)	高橋 りえこ (算数習熟度)
	三枝 三枝子 (音楽科)	小室 順子	勝部 弘子 森下 あゆみ
特別支援教育支援員	鈴木 由香		
特別支援補助員	小林 悦子	大村 聡美	
学校図書館補助員	待井 以満里	ICT支援員 栗山 重之 遠藤 隆	